歴史総合-DX

**1914年①（大正3）シーメンス事件・第一次世界大戦の勃発**

1914年（大正3）は、1月12日の桜島の大噴火から始まった。その1月にドイツのシーメンス日本支社が海軍省からの受注をめぐる海軍上層部への長年の贈収賄が発覚した（シーメンス事件）。海軍出身の山本権兵衛内閣が海軍の汚職事件で退陣に追い込まれるという 皮肉な事態となり、第一次憲政擁護運動の新しい時代の第二幕があき、民主的な政治を要求する国民と軍部主導の政権との激しいせめぎあいの中、2月には怒った国民が帝国議会を取り巻く事態となり、3月には山本内閣は総辞職し、4月には第二次大隈内閣が誕生した。6月にオーストリア＝ハンガリー帝国支配下のボスニア国の首都サラエボで、民族独立を目指すセルビア青年がオーストリア皇太子夫妻を狙撃して射殺するという「サラエボ事件」が勃発した。この事件を引き金にオーストリアがセルビアに1ヵ月後に報復したことで、複雑に軍事同盟で絡み合った戦争は「植民地を持たざる国」（独・墺）と「植民地を持つ国」（英・仏・露） との間の経済的な戦争に転化し、欧州を舞台にオーストリア・ドイツ陣営とセルビア・ロシア・フランス・イギリスなどの両陣営が4年3 ヵ月にわたり戦い、後者が勝利する第一世界大戦が勃発した。戦死者1000万人、負傷者2000万人の犠牲者を出し、従来の戦争と比較して桁違いの悲惨な戦争に、日本は日英同盟を口実に開戦、開戦翌月の8月23日に電撃参戦し、緒戦で中国の山東半島にある山東省の軍港都市・青島（チンタオ）を主戦場に租借していたドイツ軍に勝利した。さらに10月14日にはドイツ領のサイパン島を占領したのをはじめ、赤道以北のドイツ領の南洋諸島のパラオ・ミクロネシアのカロリン諸島・マーシャル諸島・マリアナ諸島を次々と占領した。